

天文
同好會

觀 測 部 月 報

太 陽 課 月 例 報 告

太陽課幹事 柴 田 淑 次

四月の花も過ぎ去つて愈々若々しい青葉の頃となつた。太陽活動も、今は其餘燼を残しつつあるのであつて、丁度新星の末路を見るが如く、變々極まりない。だがしかし、餘燼を云つても末路を云つても、そう急激に沈滞期にあるのではなく、なにしろ去年の終り頃が最大であつた今日の事であるから、あんまり大きな聲では云へない。事實此頃は、割合に相對數のカーブが高く上り、始終七、八十に達してゐる。相對數七、八十を云へばまづ多い方を云はねばならない。でもその爲めかぎうかは知らないが、近頃の氣候はとても氣狂ひじみてゐる。五月を云ふのに霜が降りたり、高知縣に雪が降つたり、花見と雪見と一緒に出来る様ぢや、さても長生きはしたいもの——？ 太陽黒點と氣候との關係は、此頃しばしば耳にする所であるが、此頃の所謂モダンタイプな方々から、その關係をよく問はれる。

その中でも氣候との關係ならまだしも、此頃の人は、自分の氣に喰はない事は皆黒點のせいにしてゐるらしい。此間も、議會で小選舉區案の論戰のあつた時も、或人に「こんなに議會が騒ぐのは黒點の影響ですか」なんて眞面目に質問されて、完全に一本參つた。黒點と氣候との關係すら議論百出の今の世に、此のデリケートな人間の頭と黒點とを結びつけるのはそりやチト無理で御座います。

扱脱線はそれ位にして、本四月の太陽活動について一言しやう。

日 付	撮影時間	撮影者
IV月2日	13時00分	Sibata
2	13 04	〃
5	10 46	〃
5	10 48	〃
13	8 57	〃
15	13 00	〃
15	13 01	〃
16	9 3	〃
16	9 4	〃
17	12 16	〃
17	12 17	〃
23	10 35	Murakami
23	10 37	〃
27	11 53	〃
27	11 56	〃

本月も三月も同様十日前後が最も活動した。肉眼に見えるような黒點の出現したのも十日頃、黒點群数の最も多かつたのも十日頃である、南北兩半球にわけて見ても、先月も同様やつぱり南半球が活動してゐる。しかし南半球の黒點群は北半球に比べて、ごちらかご云へばすべて短命であつた。

昨年に比べて今年は、非常に天氣がわるい——ご云ふよりも氣流が、全々目茶苦茶である、昨年四月五月頃の朝の氣流は誠に申分なき迄、良好であつたが、今年はもう朝の九時になれば全く駄目になる。寫眞撮影もそれだけ制限される。癢に障るが不足のもつて行く所がない。

五月でもつて私が太陽の寫眞撮影を正式に初めてから滿一ケ年になる。何處かで一年間にたまつた寫眞を並べて一週年紀念の催しを盛大にやりたいが、實の所餘り感心した寫眞も多く撮れなかつたので御遠慮申し上げやう

此頃の太陽黒點觀測者は可なり多數にある。其觀測結果を一つ一つ發表したいのであるが、毎月全部の報告の到着するのが、天界の原稿の締切りに間に合はない場合も多かつた。それ故、これだけは、ごうしても一ケ月おくらせねばならず、前の方で寫眞乾板から、その月の概況を述べておきながら、後でそれより一ケ月前の報告をするのは少し書き辛いし、一ケ月が二度になつて報告される事になるので、今迄は書かなかつた。しかし此れからは（來月號から）この欄に各觀測者の毎月の報告を一まとめにして發表する事にする。その代り一ケ月遅れた月の報告であるから、見る場合、お誤りなき様、豫め御斷り致して置く。

最後に例によつて七月の P_0 B_0 L_0 をのせる。

下表にも見る如く、 P_0 は段々少くなつて行く。 B_0 は月初めに、マイナスよりプラスになる事に注意。即、 $B_0=0$ のときには太陽の赤道は直線になつて見える。 $B=\pm 1^\circ$ 以内なれば普通の黒點の南北半球決定には、赤道を直線と見てさし支へない。

日 付	P_0	B_0	L_0
6月 5日	-14.14	-0.12	34.39
10	12.13	+0.48	328.21
15	10.02	1.08	262.03
20	7.85	1.68	198.85
25	5.62	2.26	129.66
30	-3.35	+2.82	63.48

註、以上の値は日本中央標準時の午前九時に相當する。

観測部流星課報告

課長 小 横 孝 二 郎

二月中観測を報告された方は下記の通りである。

観 測 者	略符	観 測 地	観測時間	観測個数
小横孝二郎	(Ko)	和歌山縣有田郡金屋	290 ^m	37
登尾 覺 一	(No)	和歌山縣有田郡長谷川	200	22
武重 變 仙	(Ts)	長野市北石堂町	290	22
原田參太郎	(Ha)	大分市大分橋通三丁目	495	36
田 中 鐵 馬	(Ta)	福岡市外箱崎町中小路	340	22
村 地 孝 一	(Mu)	名古屋市第八高等學校	60	1
改 發 香 塙	(Ka)	神戸市西須磨關守上	195	1

總観測時数 1870^m

總観測個数 141個

1. 以上の流星を各日別に記せば次の通りなる。観測不能及観測なき日は省いて置いた。

観測者	1	3	4	5	6	7	8	10	11	14	15	16	17	22	23
(Ko)	0						7						30		
(No)													22		
(Ts)		1	7	1		1							12		
(Ha)								3		10	7	8	8		
(Ta)						3			7				12	0	
(Mu)				0	1										
(Ka)							1							0	0
合 計	0	1	7	1	1	4	8	3	7	10	7	8	84	0	0

2. 観測されたる流星中0等以上のものを次に集録すれば、

日付	時刻	観測者	確度	継続時間	光度	速サ	色	其他	出現点		消滅点		備考
									α	δ	α	δ	
17	2h 14 ^m	(Ko)	4	0.2 ^s	0	—	BW		229.5	+23°	229.5	+23°	停止流星 上ノ流星 ト同群ノ モノカ？ 第一ノモ ト同一 群カ？
〃	3 58	(Ko)	1	0.3	0	VR	R		246	+7.5	261	-2.5	
〃	4 47	(No)	4	0.5	-1	VR		痕	224	+42	201	+49	
〃	0 20	(Ta)	5	0.3	0	rR	W	痕著 0.3	200	+0.5	190	-7	

3. 観測より導びきたる輻射點は下記の様である。

日付	観測時間	観測者	Radiant		個数	備考
			R.A	Decl		
4	3h 0 ^m →5h 0 ^m	(Ts)	232	+42	3	μ -Bootid
10	1 30 →3 0	(Ha)	167	+21	2	8 δ -Leonid
14	0 30 →2 20				2	
15	0 30 →1 30				3	
16	0 5 →1 30				1	
14	0 30 →2 20	(Ha)	152	+6	4	7 (良)
16	0 5 →1 30				3	
17	0 0 →3 0	(Ta)	197	+25	4	(良)
〃	1 45 →5 0	(Ko, No)	196.5	+21	4	
〃	〃	〃	232	+1	5	
〃	〃	〃	229.5	+23	4	(良)一個ノ停止流星ヲ含ム
〃	〃	〃	232	+41	6	μ -Bootid
〃	〃	〃	223	+36	4	
〃	〃	〃	180	+56	4	
〃	3h30 ^m →4h50 ^m	(Ts)	248	+15	4	

以上の中(良)は輻射點の位置の正確なものである。

4. 流星の同時観測

17日観測中に大分市の原田氏と福岡市の田中氏が同一流星を二個観測されてゐる。結果は後日まとめて報告するこゝにする。(4. 26)

變光星觀測報告 (6)

變光星課幹事 小 山 秋 雄

観 測 者				器 械
今 津	イサヲ	續 (淡 路)		ガリレオ式双眼鏡(4×)
龜 井	壽 彦	(白 杵町)		ガリレオ式双眼鏡(3.5×), 肉眼
小 山	秋 雄	(京 都)		18稜屈折, 33稜反射
原 靜 彦		(鹿兒島)		13.5 稜屈折(71×)

月 日 時刻	光度	備考	観測者	月 日 時刻	光度	備考	観測者
044930b きよしや の AB (Aur.)				054319 うし の SU (Tau.)			
1928年				1929年			
9 10 3	7.0	以下13センチ	小山	4 1 20	10.6		小山
10 13 2	7.1	ク		2 20	10.5		ク
16 2	7.2	ク		3 21	10.5		中原
11 10 0	7.1	ク		4 20	10.4		小山
10 23	7.1	ク		5 20	10.5		ク
11 22	7.0	ク		5 20	10.7		中原
12 20	7.2	ク		7 20	10.7		ク
17 21	7.0	ク		10 20	10.2		小山
21 2	7.2	ク		15 21	10.2	月	中原
1929年				16 20	10.1	月	小山
1 6 22	7.2	以下フアインダー	ク	22 20	10.8	月	中原
7 19	7.2	ク		29 20	11.6	33センチ	低空小山
2 12 21	7.2	ク		4 月上旬は又増光し更に17日頃より直線的に下降しはじめた。アルゴルさよく似た光度曲線を呈してゐるのは注目に値する。			
13 20	7.2	ク		060547 きよしや の SS (Aur.)			
3 7 20	7.3	ク		1929年			
15 21	7.3	月明 曇	ク	4 1 20	<13.8		小山
29 21	7.1	ク		2 20	<14.5	以下33センチ	ク
4 1 20	7.2	ク		4 20	<14.5		ク
2 21	7.2	薄曇	ク	5 20	<14.5		ク
4 20	7.0	ク		5 22	<12.6		中原
5 21	7.1	フアインダー	中原	7 21	<12.6		ク
7 19	7.0	ク 薄曇	ク	10 20	<14.5		小山
10 21	7.2	ク	小山	14 22	<13.8	月	ク
15 21	7.2	13.5センチ	月 中原	15 21	<12.6	月	中原
29 21	7.1	18センチ	低空小山	16 20	<12.0	月18センチ	小山
R Cor. 型. 8 等以下に下る事がある。				22 20	<12.6	月	中原
045443 きよしや の ε (Aur.)				29 20.5	10.8	18センチ	小山
1929年				最も注意を要する星. 有力な器械を有する人の共同を望む。			
3 29 20	4.0	肉眼	龜井				
4 2 20	4.0	ク	ク				
2 20	4.1		今津				
4 21	4.0		ク				
5 20	4.1		ク				
7 20	4.1		ク				
7 21	4.0	双眼鏡	龜井				
12 20	4.1		今津				
15 21	4.1	月	ク				

月	日	時刻	光度	備考	觀測者	月	日	時刻	光度	備考	觀測者
062047 ぎよしや の AG (Aur.)						昨年末數年振りで7.0 迄上つた. 今後の觀測は興味がある.					
1929年						154428 かんむり の R (Cor.)					
4						1929年					
	1	20	10.0		小山	4	2	23	6.2		今津
	2	21	10.8		ク		4	22	6.2		ク
	4	20	10.2		ク		5	21	6.2		ク
	4	21	10.1		中原		6		6.2		ク
	5	21	9.9		ク		7		6.2		ク
	5	20	10.3		小山		8		6.2		ク
	7	21	9.9		中原		9	21	6.3		ク
	10	20	10.5		小山		12	21	6.2		ク
	22	20	10.5	月	中原		15	22	6.2		ク
	29	21	10.5		小山	1923 年に 12.6 迄下つたがそれ以來 6.0等内外を續けてゐる.					
4 月末に極小をすんだらしい.											
104620 ヒドラ の V (Hya.)											
1929年											
4											
	3	21	8.3	市街燈に	中原						
	4	22	8.0	さまたげらる	ク						
	7	20	7.9		ク						

極大近い星々

双眼鏡で觀測できるミラ型の中では

くじらの 。 7月下旬

くじら の T 7月6日

はくてう の AF 6月18日

みづかめ の R 6月16日

特にミラは6月下旬には早朝東天低く双眼鏡にて觀測できるから、極大に達する迄に充分に目測をしてほしい。1596年 Fabricius の發見以來第367番目の極大である。

なほ今から觀るのには少しおそいかも知れないが、

ケンタウルス の T 6月中旬

はくてう の γ 6月初

ヒドラ の W 5月末

をとめ の S 6月12日

觀測用星圖希望者は變光星課宛照會の事。(小山)